

戦前期女子ミッションスクールの進学構造

——青山学院高等女学部生徒の進路分析を中心として——

佐々木啓子（創造学園大学）

1. はじめに

戦前期女子ミッション・スクールの階層文化と教育に関する前回発表（第55回大会）では、『青山学院女子専門部原簿』を分析することによって、青山学院高等女学部から同専門部にエスカレーター式に進学した生徒の出身階層を明らかにしたが、その他の女子高等教育機関への進学者、あるいは非進学者についての分析がなかった。

そこで本発表では新たに『青山学院高等女学部生徒原簿』と同窓会誌『会報』から、高等女学部生徒の卒業後の進路をたどることによって、進路選択における出身階層やその他の要因について考察したい。

2. 資料について

『青山学院高等女学部生徒原簿』（昭和5～10年卒業生 合計978名）記載項目より、「家長の職業」と卒業年度の「席次」を、また、『会報』（青山女学院校友会）各年度のクラス別「卒業生消息報告」により卒業後の進路をたどってデータ化した。

3. 女子ミッション・スクールの布置状況

青山女学院は、明治初期より日本の女子ミッション・スクールの中心的存在であったが、1918年の東京女子大学の創設とともに首都圏のプロテスタント系女子ミッション・スクールの専門部、高等科はすべて廃止し東京女子大学に生徒を統合することとなってより、中等教育機関として、上位学校への進学準備教育に重点を置くようになった。青山女学院が、再び「専門学校令」による認可を受けたのは、昭和8年、同「家政科」であった。

(表1) 青山学院高等女学部 父職業 (昭和5～10年卒 合算)

上層階級	
実業家・法人経営者・資産家	13.29
政治家・官吏・軍人	12.48
上級事務・技術・管理職	8.69
専門職(医師・弁護士・教授・自由業)	13.70
(小計)	48.16
中間階級	
自営業(農漁・工・商業)	12.68
下級事務職・公吏	20.96
中初等教員・医療・宗教家	5.52
(小計)	39.16
その他	
無職・学生	10.43
記載なし	2.25
合計(N=978)	100.00 %

(表2) 青山学院高等女学部 卒業生の進路 (昭和5～10年卒)

	S.5	S.6	S.7	S.8	S.9	S.10	計
青山女専	6	11	11	24	8	14	74
東京女子大学	8	8	6	6	12	6	46
津田英学塾	5	4	5	2	4	4	24
日本女子大学校	2	2		5	2	3	14
女高師	1	2	1	2		3	9
女子医専	2	2	3	2	1	3	13
女子薬専		1	1	2	1	2	7
音楽学校	1		2	2	2	4	11
その他の女専	10	13	24	19	7	10	83
各種学校	12	7	8	16	2	7	52
就職	11	11	6	3	23	23	77
稽古・家事・結婚	37	25	48	27	32	44	213
その他	3	7	12	6	2	3	33
不明	26	46	37	65	97	51	322
合計(人数)	124	139	164	181	193	177	978

(表3) 青山学院高等女学部 卒業生進路(成績別): 昭和5～10年卒業(合算)

	東女、津田、 女高師、医専等	青山女子 専門部	その他の 女専	各種学校	就職	家事・稽古 結婚	不明	計 (実数) (%)
1 成績上位	30.53	10.53	8.95	7.37	6.32	15.79	20.53	190 100.00
2 成績中上位	17.70	7.66	11.00	8.61	9.09	20.57	25.36	209 100.00
3 成績中位	7.37	6.45	7.83	11.06	10.14	22.12	35.02	217 100.00
4 成績中下位	4.98	7.96	9.95	7.46	6.97	24.88	37.81	201 100.00
5 成績下位	1.91	5.10	3.82	8.92	6.37	26.11	47.77	157 100.00
6 不明	—	—	—	—	—	25.00	75.00	4 100.00
計(実数) (%)	124 12.68	74 7.57	83 8.49	85 8.69	77 7.87	213 21.78	322 32.92	978 100.00

一方、昭和初期の政府の女子教育政策としては、昭和6年以降の学制改革案として、女子の高等学校、専門学校および大学への、男子と同程度の制度が構想されるようになり、同時に女子中等教育を「進学準備教育」「完成教育」「職業教育」の三つのコースに分けて調整しようとするものであった。

こうしたなかで、基督敎学校教育同盟では日本におけるキリスト敎教育改革案を模索し、「女子高等教育促進が現今の日本に奉仕する絶好の機会である」と明示した。キリスト敎教育界による一層の強化の機運が高まりつつあるなかで、特に青山学院では、小学部の設置と女子専門部の確立を企図し、ここにエスカレータ校としての「青山女学院」（昭和2年以降は通称）が出現することとなった。

4. 分析内容

(1)表1. 青山学院高等女学部「父職業」によれば、<上層階級>が48.16%と、<中間階級>の39.16%を約10ポイント近く上回る。

(2)表2. 青山学院高等女学部「卒業生の進路（年度別）」によれば、東京女子大学、津田英学塾、東京女子高等師範学校、東京音楽学校、東京女子医学専門学校、他女専、医専女専へも多数進学し、「進学名門校」となっていたことがわかる。

(3)表3. 「卒業生進路（成績別）」によれば、女高師、津田英学塾、女医専など選別的な高等教育機関への進学は「成績」が規定要因であることは当然としても、「家事・稽古・結婚」もまた「成績」との関連が強く、さらに「各種学校」「就職」は成績中位者が選

択する傾向にあったとみられる。一方、「青山学院女子専門部」へは、成績上位者から中位者、下位者まで、進学は可能であったと思われる。

(4)表4. 「卒業生進路（父職別）」では出身階層と進路の相関は部分的で、さらなる分析が必要である。

5. まとめ

大正～昭和初期の女子教育拡大にともなう女子中等教育の質的変容のなかで、青山学院高等女学部は、中等一高等一貫教育を実現し、英語、数学を重視したカリキュラムによって「進学名門校」として、選別的な女子高等教育機関への進学に有利な体制をつくる一方で、音楽などを中心とする西洋的教養による完成教育の機能も果たした。ただし上級学校への<進学><非進学>は、本データでは「出身階層」よりも「成績」との相関が強いことが認められた。

（発表時に資料、参考文献リストを配布予定）

参考文献

P. ブルデュー&J.C.パスロン、1964/石井洋二郎（監訳）『遺産相続者たち—学生と文化』1997、藤原書店
青山さゆり会『青山女学院史』1973

「青山学院院長報告」（昭和4、6、10～17年度）

「青山学院 女子専門部・高等女学部（青山女学院）一覽」（昭和6年度、10年度）

「青山学院高等女学部（青山女学院）学則摘要」（昭和2年、5年、10年）

* 本研究に貴重な資料を提供して下さいました青山学院高等部および青山学院資料センターの方々に深く感謝いたします。

(表4) 青山学院高等女学部 卒業生進路(父職別): 昭和5～10年卒業生合算

	東女、津田、 女高師、医専等	青山女専	その他 女専	各種学校	就職	家事・稽古 結婚	不明	合計 (実数)	(%)
上層階級									
実業家、法人経営者、資産家、地主	10.00	6.15	10.00	5.38	5.38	26.15	36.92	130	100.00
政治家、官吏、軍人	13.11	8.20	14.75	11.48	4.92	18.03	29.51	122	100.00
上級事務・技術・管理職	8.24	12.94	10.59	11.76	3.53	22.35	30.59	85	100.00
専門職(医師、弁護士、教授、自由業)	12.69	6.72	8.96	5.97	8.21	26.12	31.34	134	100.00
中間階級									
自営業(農漁・工・商)、貸家業、	7.26	5.65	6.45	6.45	11.29	24.19	38.71	124	100.00
下級事務職	12.20	8.29	4.39	9.76	8.78	21.95	34.63	205	100.00
中初等教員、医療、宗教家	24.07	9.26	9.26	16.67	5.56	5.56	29.63	54	100.00
その他									
無職・学生	18.63	4.90	6.86	6.86	14.71	19.61	28.43	102	100.00
記載なし	22.73	9.09	9.09	9.09	—	22.73	27.27	22	100.00
合計(実数)	124	74	83	85	77	213	322	978	